

## 第2回白石町総合計画審議会 会議録（要旨）

■日 時 令和3年7月12日（月） 午後7時00分～午後8時45分

■場 所 白石町役場庁舎3階大会議室

■出席者 委員：19人出席

町：副町長、企画財政課職員5人

○開会

【進行：山下課長補佐】

○会長挨拶

日中の仕事等あるなかで第2回審議会に出席いただきご苦労様です。活発な梅雨前線の影響で静岡県をはじめ、南九州3県において被害が出ておりお悔み申し上げたい。

今回は事前に配布してもらっていた町のアンケート結果についての協議になるので審議をよろしく願います。

○審議事項

進 行：本日は総合計画策定の基礎資料になる今回実施した町民アンケート調査の実施・集計・分析を手伝ってもらっている株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所九州支社の2人に参加してもらっている。

それでは、ここから審議事項に入るので川崎会長に議事をお願いする。

会 長：（1）町民アンケート調査の結果について、事務局に説明を求めます。

事務局：（別紙1を用いて説明）

<町民アンケート調査について資料1を用いて項目ごとに報告を行い委員より質疑や意見があった。>

【愛着心について】

委 員：回収率44%いかがか。他の自治体と比べてどうか。

事務局：回収率については、自治体によってさまざまだ。これより少ないところもあれば高いところもある。40%をこえているので、良い方ではないかと考えている。

委 員：アンケートは回収率が80%程度あって、町民の総意を得られると考えられるがどのように考えているか。

事務局：仰るとおり。しかし、回収率が低くても、他の自治体で同様の会議でアンケート

の結果を紹介すると、住民の肌感覚としてほしい合致しているという意見がある。われわれとしては、回収率が低くてもある程度の妥当性はあると考えている。

委員：回収率について。2,000名の方をどのように抽出したのか。

事務局：年代割合に応じて抽出している。

委員：アンケート回収率が高い方がよい。様々な手法を用いてアンケート回収数向上に努めてほしい。例えば何かの会合を通じて配布回収をするなど回収率を上げる方策を考えた方がよいのではないか。

事務局：今回のアンケートについては、郵送で送付しているが、回答については原本回収もしくはWEBにての回収を設けた。前回の回収率よりも少し良くなっている。回収率向上のために今後対応していきたいと考える。

委員：本町とは逆に転入が多い地域の回答はどのようになっているのか。他の自治体の調査結果と比較していかがか。

事務局：その点については、結果を報告する際に説明したい。ただ、概略をいえば、子育て支援サービス満足度は高くなっており、地域への参画が低いという傾向が出ている。

### 【普段の暮らしについて】

委員：大雨時の排水災害についてお聞きしたい。福富・有明地区は有明海に直接排水しているのに対し、旧白石町は六角川を介しているため、満潮時には浸水被害が起きる。旧白石町も有明海へ直接流せるように排水施設を整備するといった計画はあるのか。

事務局：排水対策は町として大きな課題だ。今年度から始まった県の治水対策事業に、いち早く手を挙げている。この事業は県から2分の1の補助がある。町のこれからの排水体系をどう構築するか、調査研究のための予算を6月議会に上げている。概ね今年度にもまず現状を調査し、来年度以降どのように事業を進めるか検討している。直ぐに実現するのは難しいが、着実に対策を進めていきたい。

委員：ゲートの件についてお聞きしたい。各地区にあるゲート管理者の選出基準はどうなっているのか。管理者が全く動かず、浸水しやすい地区に畑やハウスを持っている知り合いが、危険な状況にある。最小排水も大事だが、まずきちんと動いてくれるゲート管理者を据えることをお願いしたい。

事務局：ゲート操作管理者の人選については、1級河川や地沈水路等の大規模なものは地元から推薦された方に町の方から委託している。小さい河川については人選も含

め運営を委ねている。問題が生じているならば、相談して欲しい。

### 【これからの暮らしについて】

委員：問20、消防団活動はどこに含まれるのか。

事務局：防災訓練や防犯等の項目に含まれる。

委員：30～40代が消防団活動に入らなければ厳しいのでは。清掃や交通安全等は上の年齢でも問題ないが、昨今の災害が頻発している中で、この世代の層が薄い地区もあり、不安に感じる。

事務局：構成員の高齢化など、地区ごとの活動状況に差が見られるのか。

委員：地区にもよるが、小さな地区や山手側に40～50代が多い。高齢者が多いところでは、災害への対応が難しい。昨年の豪雨時に消防署から排水ポンプを出してもらったが、小型ポンプ等で対応できれば良いというところもあった。

委員：問20「どのような活動に参加したいと思うか」に、「全く参加したいとは思わない」が16.7%。他の地域も同じ傾向とのことだが、選択肢の項目数が多いのにこの数値は悲しい。町の方でも気にして欲しい。「なぜ参加したいと思わないのか」と、理由を探る質問を設けてもよいのでは。

委員：そのことに関連するかもしれないが、33ページの間15でボランティア活動等に参加しているのが13.0%。活動していない85.6%の中に、「きっかけがあれば参加してもよい」という方もいると思われる。こうした潜在的な層を引き込んでゆく方策が必要。行政が先頭に立って呼びかけるなど、新しい人が気軽に参加できるような取り組みが求められる。

委員：67ページの「何とか地元貢献したいと思う」方が20数%であるが、結構いる。他にも、「体力・気力が続いたら活動したい」という方もいて、上手くきっかけさえつくれば、こうした方々が活躍できる場を数多く与えられるのではないか。一例として、子供見守りの一環として青色回転灯のパトロールをしている。地元貢献したいと思う方は多く、もっと各部署でアイデアを出し合い活動の幅を広げれば、参加者の生きがいも増えると思う。

### 【地域活動について】

委員：若者・転入が多い町では、やりがいとストレスのどちらが多いか。転入が多い地域では白石町と比べて、その傾向が違ってくるのか知りたい。

事務局：転入が多い地域のデータについては、持ち帰って確認する。

## 【コロナウイルスの影響について】

(質疑・意見なし)

## 【これからの白石町について】

委員：アンケート結果の印象は、概ね住民全員の総意に近いのではないかと思います。町全体を見渡してみても、住むメリットは農家にしかないと感じている。さらに掘り下げると、60～70代には住みやすい反面、若者には住み難い感じがある。企業誘致と景観についていうと、空き家対策や雇用機会拡大の面で、企業誘致を望む声は多い。一方で景観を考慮するとビル等の建造物は難しいと思う。農業関連の企業を優先して誘致活動をするのか。SDGs絡みで、国としても農業の重要度が増すと思われる。この点を踏まえ、移住促進や人口減少対策への取り組みに農業を活用してゆくのか。国が掲げている脱炭素社会、カーボンニュートラル、グリーンリカバリーなどにも関わってくる。3Rに関連して、行政としては空き家についてどんな取り組みをしているのか。移住者向けのツールや、住民の安心・安全を守るために整備を進められると思うが、財政難の中でどう折り合いをつけるか。国の方向性と歩調を合わせたグリーンリカバリー、自然環境保全。ビジョンにもある「人と大地がうるおい輝く豊穡のまち」だと、農業の人たちしか来れないのでは。それならいっそ農業に特化した形で、就農希望者に「来た方がいい」と、もっとアピールした方がよいのでは。「若手に対する支援が少ない」との声があるなら、例えば「新規就農者に対して1年間は面倒を見ます」というくらいの、大胆な支援があっても良いのではないかと。

事務局：企業誘致の件は県の部署に職員を派遣し研究を進めているところだ。国土利用計画においてもゾーニングを行い、企業誘致ゾーンを設定し、業種も含め検討している段階にある。

空き家対策については、白石町にも崩壊寸前の危険な特定空き家がたくさんある。いかに早く解決していくか、対応に努めているところだ。協議会も新しく立ち上げて優先度の高いものから対策を進めている。今年度に入ってからまずは所有者の方に文書等で勧告や命令を行い、それでも対応できなければ町の方で代執行していく。このようにして空き家を1軒でも減らすべく取り組んでいく。

新規就農については「しろいし農業塾」があり現在3期生が在籍している。毎年3～4名ほどで研修期間は概ね2年としている。県外在住者を対象に募集しており、東京などの遠隔地からも来ていただき、営農を開始している方も増えている。また合わせて、いちごのトレーニングファームができた。こちら県や農協と連携して募集し、いちご農家が増えるように取り組んでいる。国や町単独の助成事業を使いながら、新規就農者への支援に取り組んでいる。

今日の審議会が出た意見やアンケートの結果を踏まえ、計画を策定していく。

事務局：他に意見がないようであれば進行を会長へお返しする。

会 長：(2) その他について委員からあるか。

委 員：昨年9月の台風10号の際の避難所運営についてお聞きしたい。白石町総合センターへ避難したが、コロナ対策で検温する必要もあって対応に時間がかかり、1階のホールが密集状態だった。台風の規模が史上最大クラスといわれたこともあり、おそらく想定以上の避難者が詰めかけたと思われる。この経験を踏まえ、職員の配置や社会的距離を取りながらスペースを確保するなど、どのような対策を考えているか。

事務局：台風への事前避難者は普段200名程度だが、今年の台風10号では約2,000名と想定を大幅に超えた。ご指摘の通り受付が混雑し、避難者が密集状態になった。コロナ対策もあり会場を増やしたものの、人員不足等もあり上手く対応できなかった。この経験を踏まえ、簡易テントやパーテーション、検温用のサーモグラフィ等、避難所におけるコロナ対策の備品を充実させるよう準備を進めている。

委 員：ペットの避難対応についてお聞きしたい。

事務局：昨年も要望が出ており、今年から試行的に実施している。役場の横にある東倉庫に預けてもらい、飼い主は避難所へ向かうことになる。

委 員：町の広報誌にも、関連の予算が組んでであると掲載されていたので、何らかの対策が考えられていると分かった。今の答えも踏まえ、安心して避難できるのではないかと感じる。

事務局：避難所のベッドについて。組み立て式でかなり丈夫だ。繰り返し使えるので段ボール製よりもずっと使い勝手が良い。また、簡易テントについて、乳幼児を抱えた母親のために、授乳スペースやおむつ交換の場としての活用も考えている。毛布についても備え付けの数を増やしている。これからも住民が安心して、快適に過ごせる避難所づくりを心掛けたい。

会 長：委員から他にないようなので事務局に説明を求めます。

事務局：(別紙2用いて説明)

今回は8月下旬もしくは9月上旬を予定している。残りの基礎調査と、第2次計画の進捗状況調査の報告、これらに対する質疑、第3次計画の構成等の審議を考えている。

第3回まで委員の皆様の見解を伺い、アンケート調査の結果と審議会の議案を踏まえて草案の作成に入り、第4回以降に計画の形(外郭、アウトライン)をお見せしたい。

(別紙3用いて説明)

町民アンケートの結果に対する、委員からの意見や感想、また次回で審議して欲しい議案等を集約したい。意見シートの形に拘らず、メールやベタ打ちなど、様式は自由としている。今日なかなか発言できなかった方も、どんなことでも構わないので積極的に、率直な意見を伺いたい。提出の期限は、概ね2週間程度を想定している。

会 長：他になければ、事務局のほうに進行を戻します。ご協力ありがとうございました。

○閉会

進 行：本日の予定は全て終了したので、これで第2回の審議会を終了します。お疲れ様でした。